

私が震災で学んだこと

早乙女みゆき（栃木県）

私は日頃から防災用品や食料備蓄などという言葉をも、テレビや新聞などで目にしたりと、耳にしたりすることはあっても心のどこかで自分には関係ないと思っていました。震災が起きて数日が過ぎた頃、下の子のおむつが少なくなっているのに気付く、近くのドラッグストアへ出掛けました。すると店内は人で溢れ、日持ちする食品や生理用品、子どものおむつやミルクなどほとんどの商品が完売の状態でした。私は近くに居た店員さんに、「入荷するのはいつ頃になりますか」と訊くと「いまのところ未定です」と言われ愕然としました。どうしてもっと備えとい

うことをしなかったのだろうか。

仕方が無いので少し遠くにあるお店に行きました。やはり、そこでも人で溢れ、空の棚が目立っていました。ようやく、おむつを見つけレジに並んでいると周りの人のカートにはたくさんの商品が積まれています。店員さんが、「多くの商品をお求めになりますと他のお客様が求められなくなりますので、必要な商品だけをお願いします」と言っているにもかかわらず、次から次へと商品をカゴに入れていく人達を見ると複雑な気持ちになりました。確かに自分の子どもや家族に切ない思いをさせたくはありません。ですが、こんな時だからこそ他の人を思いやる心を忘れてはいけないのではないかと思いました。

震災の日から下の子は地震を怖がるようになり、小さい地震でも私にしがみついています。栃木県は比較的、被害が少なかった地域なのに子どもにとっては記憶に残ってしまう出来事なんだなと思うと同時に、被災地で実際に津波の被害にあった子や、家族や大切な人達を失くしてしまった子ども達のことを思うと胸が苦しくなります。最近ではニュースや新聞などでも被災地のことを見る機会が少なくなりました。時間が過ぎても被災地のことや被害にあった人達のことを忘れていくことを私は怖いと思います。震災のことを忘れていくということは、次に起きるかもしれない震災への危機感

を忘れるということになると私は思うからです。

私は情けない話ですがボランティアに参加することも出来ないし、多額の寄付をすることも出来ませんが、私の力で何か出来ることが少しでもあるならば全力でしたいと思いました。この震災で日頃の自分の考えの甘さや、周りの人を思いやることの出来る優しさを常に胸に置いておくことが一番大切なのではないかと思いました。

